

「純真で人懐っこい児童に感心・感動」

校長 藤井 和彦

間もなく盛夏を迎える季節となりました。県南部ではすでに連日三十度を超える蒸し暑い日が続いていますが、神石小は今日も爽やかな風が校庭を通り過ぎていきます。

13日、児童会行事で「おりづる集会」を行いました。進行役の児童会役員はこの集会の目的と自分たちでまとめたプレゼン資料によって8月6日広島に投下された原子爆弾のことを全校児童に分かりやすく説明しました。その後、「おりづる」の全校合唱を行い、児童全員で鶴を折りました。この鶴は8月24日「神石高原平和の千羽鶴運動」に学校代表として参加する二名の児童会役員の手によって平和公園に届けられることとなります。

今年ほどこの「折り鶴」が話題になった年は記憶にありません。先日、オバマ大統領が初めて広島を訪問し、自分で折って持参された折り鶴が平和資料館に展示されました。また最近、原爆ドームの東隣に「おりづるタワー」がオープンしました。来場者は十二階で折り鶴をつくり、ガラス張りの壁面「おりづるの壁」に投入することができるそうです。

児童は様々な学習の場を通して、平和の大切さについて学び続けてほしいと思います。

またこの日は、神石高原町小中学校リーディングス巡回公演で「ピアノ」トリオ「ミロセ」の生演奏を聞きました。「あす」「剣の舞」「白鳥」などのクラシックの有名な曲に触れ、子どもたちははしゃぐように聞いていました。「ミロセ」の皆さんは「こんな小中学校に行かせてもらうが、こんなに集中して聞き、よく歌い、よく舞う」や「校歌」を生演奏の伴奏で楽しんでくれた子供達は初めてです。純真で人懐っこい児童に感心・感動です。「よい言葉を残していったらよかった」。

一学期の学校生活をほぼ終えて、もう一回り成長した神石小学校の児童です。